

資産経営・公民連携首長会議 関連情報、記事・コラム（1）

「神奈川県立近代美術館鎌倉館の閉館に関連して」

株式会社公共ファイナンス研究所
阿部博人

老朽化したカマキン

1951年に完成した神奈川県立美術館鎌倉館（旧館、1966年に新館部分が増築）が老朽化のため、2016年1月31日で展覧会開催と一般公開を終了した。別棟と耐震に問題があるため2007年より展示のための使用を中止している新館（第3展示室）は取り壊す。旧館は国史跡に指定された鶴岡八幡宮境内に位置し、史跡にそぐうもの以外の現状変更は認められず、美術館としての改修は困難であるため、八幡宮と神奈川県との借地契約は更新されず、旧館は八幡宮に無償譲渡され、建物自体は耐震補強し保存される方向となっている。神奈川県は財政が厳しく美術館としての改築・改修予算が確保できないとも聞く。建物・外観は保存運動で残されることになった。

神奈川県立近代美術館は日本で最初の公立の近代美術館で、「カマキン」の愛称で親しまれてきた。建築設計はル・コルビュジェの弟子で日本のモダニズム建築を代表する坂倉準三。旧館の設計はピロティ（列柱群）で建物を支え蓮池に迫り出したユニークなもので、蓮池に面するテラスが知られる。

カマキンの活動終了は公共施設の老朽化問題であるが、いくつかの論点があげられる。

神奈川県立近代美術館鎌倉館（撮影：阿部博人）



（左が旧館、右が新館）



（ピロティで支えられ蓮池に迫り出している）



（旧館の正面）



（中央吹き抜けより蓮池）



（テラス、ピロティ、蓮池）



（最後の展覧会表示）



(新館の使用中止の表示)



(別館と蓮池の芸術作品、
遠くに八幡宮鳥居)



(本館テラス天井の蛍光灯とクラック)



(別館の入口表示)



(別館の正面)

名建築の保存問題

第1が有名建築物の保存である。建築・芸術文化・歴史の観点から保存する意義が認められたとして、その維持管理コストと取り壊して別の用途に供するメリットを考える必要がある。この点に関して、世田谷区庁舎建替えに関連して後述する。

神社の境内でのマンション建設関連

第2が神社境内の神社によるマンション建設の是非である。神社の収入が充分ではないことから、境内を定期借地権で貸出しマンション建設するという計画が、京都の世界文化遺産の下鴨神社（賀茂御祖神社）などで話題となっている（下鴨神社は敷地内であるものの、道路をはさんで現在は駐車場となっている場所で、景観も配慮される）。京都の梨木神社は神社本庁の承認が得られず神社本庁を離脱して分譲マンションの建設となり、東京の神楽坂の赤城神社にも定借で分譲マンションが建設されている。カマキンは鶴岡八幡宮の理解で保存されることになったが、借地に建つ公共施設の建替えのあり方や私有地での景観や歴史文化保存等の是非が問われる。

美術館・公共施設の建設と運営、PFI

第3が本論の美術館の建設と運営、公共施設の整備、PFIや指定管理者制度のあり方である。公共ファイナンス研究所発行の「公共施設マネジメント」2014年春号 Vol.10で「美術館・博物館の建設/運営を考える」特集を組んだ。また、同2015秋・冬号 Vol.12の「編集長の視点」で美術と音楽について執筆し熊本市現代美術館等についてふれた。

神奈川県立近代美術館は今後、八幡宮近くの別館と葉山館の2館体制で活動が行われる。葉山館は美術館初のPFI事業で、概要は前誌で紹介している。

以下は会員専用コーナーで掲載中